



平成25年府中市議会3月議会終了

平成25年府中市議会第1回定例会(3月議会)で平成25年度の予算審議が行われ、可決されました。
25年度は高野市長が全てに関わった初めての予算案です。

一般会計予算

一般会計の予算規模は、927億1千万円で、昨年よりも29億1521万1千円、3.2%増となりました。

平成25年度は臨時財政対策債の借り入れが出来なくなり、財源不足が懸念される中、基金の取り崩しを行い、厳しい財政状況にあります。

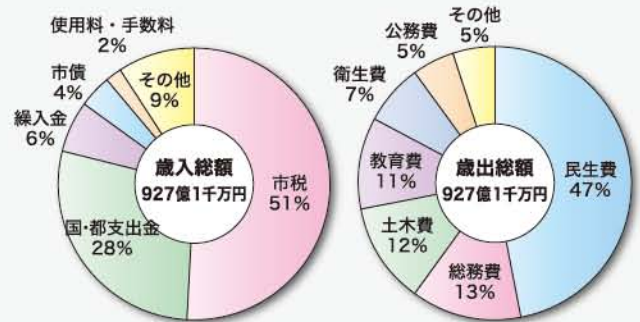
行政改革を進め、コストを削減する一方で、高齢社会では必要な民生費は上がっていきます。その上、今予算では府中駅南口再開発関係の予算も計上されたことにより、昨年よりも上記の額が増となりました。

南口再開発は府中市の将来をうらなう重要な事業です。お金がかかることではあっても、それがまた街に還ってくるという点において、是非中途半端にせず、積極的に市はバックアップをしていく必要があります。

厳しい財政状況にあるからこそ、何処にお金を使っていくか、しっかりと議論し、チェックしていくことが大切です。

ぜひ、皆さんも“地元”に興味を持ち、一緒に街づくりに参加していきましょう！

市民と行政をつなぐ架け橋として、これからも活動してまいります！



歳入		
市 税		¥46,991,279,000
国・都支出金		¥26,093,094,000
市 債		¥3,167,000,000
繰入金		¥5,699,314,000
使用料・手数料		¥2,159,969,000
そ の 他		¥8,599,344,000
総 額		¥92,710,000,000
歳出		
民 生 費		¥43,465,792,000
総 務 費		¥12,369,916,000
土 木 費		¥11,149,191,000
教 育 費		¥9,869,479,000
衛 生 費		¥6,642,110,000
公 債 費		¥4,970,616,000
そ の 他		¥4,242,896,000
総 額		¥92,710,000,000

本会議のインターネット配信

府中市議会では第2回定例会(6月議会)から本会議のインターネット配信を行います。

生中継だけでなく、録画配信も行いますので、いつでも市議会の傍聴が可能になります。市議会でのどのような議論が行われているのか、もっと身近になる様にこれからも開かれた議会を目指して参ります。

人事異動

中島信一副市長、田中健司副市長が退任にあたり、府中市議会では吉野誠政策総務部長の副市長就任に同意しました。前副市長のお二人は長い間府中市政にご尽力されました。今後のご活躍をお祈りしています。吉野副市長の任期は4月1日より、4年間です。

府中市インフラマネジメント計画に関して

平成25年の1月に府中市では全国に先駆けて「府中市インフラマネジメント計画」を策定しました。24年末の笹子トンネルの崩落事故を受けて、一般の市民の皆さんにもインフラの維持管理、老朽化への関心が増えています。須山たかしは府中市議会第1回定例会において、府中市がどのような考えで「府中市インフラマネジメント計画」を策定したのかを一般質問致しました。

Q. 府中市のインフラの現状での問題はこういったものがあるか

A. 府中市では、昭和30～40年代に多くのインフラを整備しているため、老朽化に伴い、今後の管理費用が膨大となることが想定される。維持管理への長期的な視点、市の全体的な予算、インフラ管理に費やすコスト削減への取り組み、全庁的な各施設間の調整及び民間企業や市民の活力活用などが不足していると認識している。

Q. 市民との協働による管理に関して、こういった目的でどの様に進めて行くのか

A. これまで都市基盤は行政が設置し、維持管理することが一般的だったが、“つくる時代”から“管理する時代”へと移り変わる中で、市民と行政がそれぞれ責任を持ち、役割を分担することでともに管理をしていくことがありべき姿である。こうした考えのもと、市民との協働を柱にしたまちづくりを推進していくために、市民に情報提供していただく不具合等の通報制度や、登録した市民や団体が道路や公園の管理を行うアドプト（里親）制度など、市民力を活用した新しい管理手法を積極的に導入することで、市民との協働によるインフラ管理を推進していきたいと考えております。



Q. 「不具合等の通報制度」はどういったものか。また、長崎県を始めとした「道守活動」といった事例があるが、こうした先進事例の研究は

A. 不具合等の通報制度とは、あらかじめ登録した市民や企業の自動車運転手などが、市の管理するインフラの不具合を発見した際に、いち早く市に通報していただくこと。通報者を登録しておくことで役割を明確にし、定期的にパトロールしてもらえること、多くの視点で監視することで不具合の状態になる前に発見できる可能性があり、早期の対策を実施するもの。



不具合等の通報制度については、道守九州会議が行っている、「ボランティアネット道守九州会議」などの仕組みを参考に、危険箇所の点検や提言なども活動範囲にし、道路ユーザーの視点が道路管理に反映される仕組みとなるよう検討している。

要望事項



厳しい財政の中、国全体として少子高齢社会が進んでいる中で、今後の20～30年といった長いスパンでインフラの管理にあたるか、その為に市民の皆さんにも出来るところは一緒に管理をして頂こうということですが、ただ単に手伝ってくれと言っても市民は動きません。

例えば長崎大学と長崎県が中心に進めている道守は「観光立県」を県是としているだけに「観光を支える道守養成ユニット」として橋やトンネルや道路の維持管理を行う人材を養成する講座を行なっています。如何に市民を巻き込んでいくか、「私たちのまち府中」という意識を作ることが大切です。

ICT化も含めて、市民の皆さんが積極的に関われる仕組みを作る様なインフラマネジメントを進めて頂きたい。

府中市議会議員 須山たかし プロフィール

1980（昭和55）年11月6日生まれ。

府中市晴見町育ち・在住。明星幼稚園、桐朋小・中・高校、

早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大隅塾一期生。

民間の特許事務所に3年半勤めた後、政党本部スタッフ、参議院議員公設秘書など国政に従事。

蓮舫（れんほう）参議院議員の秘書を務めた後、2011年府中市議会議員に初当選（⑤2940票）。

文教委員会副委員長 再開発対策特別委員会委員

市民フォーラム所属

ご意見・ご要望など
ご連絡下さい

府中市議会議員

須山たかし

Tel 042-306-7361

mail suyama1980@gmail.com

HP <http://suyamatakashi.jp>

blog <http://ameblo.jp/suyamatakashi/>

twitter http://twitter.com/suyama_takashi/

facebook <http://www.facebook.com/suyamatakashi/>

